

令和元年度 地方創生推進交付金事業に係る効果検証

14【達成度評価】欄(事業担当課記載)
「R元年度のKPI値」に対してのR元年度の達成度評価を下記により記載。
◎＝指標値を達成
○＝指標値の約7割以上達成
△＝指標値の約5割以上達成
▼＝指標値を達成していない

15【総合評価】欄(事業担当課記載)
A:計画を上回る取組みや事業展開ができた
B:計画どおり実施できた
C:一部計画どおり実施できなかった
D:計画通り実施できなかった

(各交付金対象事業の重要業績評価指標 (KPI) の実績値等)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳
No	交付対象事業名	総合戦略上の関係事業名	担当課	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	KPI (H29年度)	H29年度 実績	KPI (H30年度)	H30年度 実績	KPI (R元年度 (H31年度))	R元年度 (H31年度) 実績	達成度評価	総合評価	総合戦略関連ページ	成果の総合分析	外部有識者からの評価・意見	総合戦略のKPI達成に・有効・有効でない	外部有識者からの意見	外部有識者からの意見をふまえての今後の展開等の市としての考え方
1	産官学連携まち・海・里山活性化加速化事業	【P66・67:②-1】 泉南農業塾運営事業 【P66・67:②-1】 担い手集積推進事業 【P66・67:②-1】 砂栽培プラント展示事業 【P66・67:②-2】 水産資源再生事業 【P66・67:②-3】 泉南観光資源開発事業	産業観光課	経営の自立に寄与するブランド養殖アナゴ育成	0 円	240,000 円	307,393 円	360,000 円	610,266 円	860,000 円	1,451,580 円	◎	B	54・59・66・67・118	「岡田浦漁業協同組合」、「近畿大学水産研究所」及び「泉南市」の産官学連携によりアナゴ養殖を実施し、30g級アナゴ稚魚を最大200g級まで成長させることができた。また、成長した養殖アナゴを「泉南あなご」と銘打ち一定ブランド化を図ることができた。歩留まり率を向上させることが課題となるが、引き続きアナゴ養殖に取組み市全域の活性化に繋げることを目標とする。	A委員 有効	目標を大きく上回る実績を上げており、各種広報活動やふるさと納税返礼品でのPRも効果的であったと考えられる。次に対外的な効果だけでなく、多くの泉南市民が食べたことがある状態に醸成していく必要があると考える。	ふるさと納税返礼品への出品数を増やすことや新たな商品開発により更なるブランド化を図っていく。また、泉南ロングパークマルシェゾーンで身近に食することができることや、認定こども園や小中学校給食への食材提供を実施したことで、泉南市の地域ブランドとして醸成された。	
				砂栽培技術を有する泉南農業の担い手の育成	0 名	5 名	2 名	10 名	11 名	16 名	12 名	○	B		農業塾塾長及び講師との協議を踏まえ、年間5名程度の人材育成を最速としていたが、農業委員会、各区の実行組合、塾卒業生等の協力の下、PRを行った結果、新規に7名の受講生を確保した。また、希望者は1年間の受講期間終了後も塾長及び講師のサポートを行いながら受講を継続し、さらなる知識の吸収ができる体制を構築した。 令和2年度より任意団体である「泉南農業塾」へ事業の運営を継承し、担い手育成の場を引き続き維持する。	A委員 有効	令和2年度以降の継承も継続して注視する必要がある。	令和2年度及び令和3年度は任意団体として、令和4年度からはNPO法人として独立して活動を継続している。新規入塾生の募集も随時おこなっており、令和2年度は5名、3年度は7名を確保している。また、卒業生については令和2年度以降は2名が農地の権利を新たに取得し、新規就農している。より高度な技術の習得を目的に農業塾の卒業後、大阪府とJAが行う水ナス・菊菜アカデミーを受講する者も1名おり、担い手の育成の場として一定の成果を得られているため、継続して支援を行う必要がある。	
				花咲ファームを核とした農水産観光の体験機会の提供	0 人	1,500 人	1,609 人	2,000 人	2,300 人	2,500 人	3,000 人	◎	A		泉南市農業公園「花咲きファーム」の活性化を図るとともに、地元で収穫された新鮮野菜の販売や地元の食材を使用した料理の提供などを通じ、1次産業の活性化に寄与するイベント「せんなん農と海の恵みマルシェ」を開催し、市の活性化に貢献した。	A委員 有効	花咲ファームはポテンシャル的に3,000人で達成とするのではなく、ローズガーデンとの協働で更なる発展が期待される。	「せんなん農と海の恵みマルシェ」開催により泉南市農業公園の知名度向上に貢献することができた。また、デビッド・オースチン・ローズ開催の「春のローズフェスティバル」開催時には、市内外から4万人を超える人が来場されるなど大変賑わっている。今後は農業公園全体の更なる活性化について検討していく必要がある。	
2	KIX泉州ツーリズムビューロー事業	【P56・57:①-6】 広域連携観光事業	産業観光課	泉州地域の訪日旅行者数 ※増加分	—	—	—	82 万人	234 万人	36 万人	233 万人	◎	A	4・56・9	本事業は、関西国際空港を利用する訪日旅行者等に、泉州9市4町を回遊してもらうことを目的としており、泉州地域の訪日旅行者数は、事業目的に対する効果を直接的に図ることができる。事業開始以来、目標値を大きく上回る結果が得られていることから、本事業の取組が一定の効果を出しているものといえ、広く関西を訪れる訪日旅行者等にとって泉州地域が魅力的なエリアとして受入れははじめている証左である。	A委員 有効	実績値がない理由は何か？また、これらの数値における泉南市の貢献度はどのくらいなのか把握できているのだろうか？	当事業については平成30年度事業開始のため、平成29年度は数値は記入していない。事業実施主体のKIX泉州ツーリズムビューローがKPIの把握を行っているが、新型コロナウイルス感染症拡大により外国人訪日客が皆無であり、実績値が限りなくゼロに近い数字なので令和元年度の実績値は記入していない。	
				泉州地域の来訪者満足度 (訪日旅行者) ※増加分	—	—	—	0.5 ポイント	1 ポイント	0.3 ポイント	— ポイント	-	D		満足度が高ければ、再訪や友人等への紹介、SNS等での情報発信が見込まれることから、訪日旅行者満足度の推移を把握するために関西国際空港にて独自のアンケート調査を実施するもの。平成30年度は目標値を大きく上回る結果が得られたが、令和元年度は誘客事業や他の成果指標の獲得に注力するため、アンケート調査の実施を断念した。今後は体制、手法等に配慮しながら引き続き重要な成果指標として取り扱う。				
				泉州地域の延べ宿泊者数 (訪日旅行者) ※増加分	—	—	—	36 万人	136 万人	15 万人	— 万人	-	A		宿泊者数の増加は、地域の消費額の向上に大きな影響を与えるものであり、泉州地域への旅行者と地域消費額を関連させる指標である。平成30年度は目標値を大きく上回る実績値が得られていることから、台風21号による影響は順調に回復しているものと考えられる。令和元年度は年度末に新型コロナウイルス感染症による影響が色濃く表れるものと推測されたが、目標値を上回る結果が得られており、一定の効果を出しているものといえる。				
				泉州地域の旅行消費額 (訪日旅行者) ※増加分	—	—	—	263 億円	730 億円	115 億円	771 億円	◎	A		訪日旅行者による宿泊や観光、飲食に伴う消費動向を測定するために設定しているもの。従来のデータ取得方法では調査対象各々の消費額がダイレクトに数値に反映されていたため、観光庁や大阪観光局と同様の手法を採用するもの。平成30年、令和元年度共に大きく目標値を上回っており、泉州地域を訪れる訪日旅行者等の消費に対する積極的志向が明らかとなった。こうした潜在的なニーズに応えることのできる魅力的な商品開発を継続する必要がある。	B委員 有効			